

「庶民階層における教育の大衆化」

2014年11月30日

於：大阪大学人間科学研究科

【趣旨】

近年、フランスではバカロレア(大学入学資格)の水準に達する若者が8割に近づいている。つまり「第2の教育爆発」という現象が起きている。こうした中等教育の大衆化による功罪について、フランスでは教育の平等、公正さ、そして民主化への手立てについて議論を呼んでいる。高等教育の大衆化、ユニバーサル化など、我が国における問題と比較しながら、改めて検討する必要があるように考える。

ここでは、1984年にシュベールヌマン文部大臣が目標として掲げた同一年齢層80%のバカロレア水準が30年を経て達成されようとしている現在、その効果と課題についてフランスから社会学者を招へいし、一緒に考察したい。さらに2013年新教育基本法が制定された今、どのような課題が新たに生まれてきているか検討してみたい。

具体的には、庶民階層、移民にルーツを持つ子どもたち、郊外に住む子どもたちの学業達成は上昇傾向にあるわけだが、にもかかわらず景気の低迷、経済の構造的な転換の中で、かれらの学歴の有用性の低下が指摘されるところである。

この課題に関して、フランスの中等・高等教育に焦点を当てながら、庶民階層の子どもたちに対して学校教育のどこに問題があるのか、特に政策、制度上にみる問題状況や取組を中心に検討し、広く深い議論を起こしたい。

11月30日(日)【日仏教育セミナー】(有料：資料・茶菓子代)

開場：9時半～

10時—12時半 司会：園山 (*すべて仮題のため、変更の可能性有)

- マチアス・ミエ(ツール大学) 通訳：小林純子(南山大学)
「学校離れの形成過程」
- 荒井 文雄(京都産業大学)
「職業高校生の就業移行問題の構造」
- 小澤 浩明(東洋大学)
「新自由主義時代における生活困難層の教育と労働実態
～大規模公営住宅の調査より～」

14時—16時半 司会：園山

- ピエール・ペリエ(レンヌ大学) 通訳：村上一基(一橋大学大学院)
「庶民階層の家族と学校」
- 村上 一基(一橋大学大学院・日本学術振興会特別研究員 DC2)
「パリ郊外におけるムスリム家族の教育戦略
～学校・地区・アイデンティティ～」
- 森 千香子(一橋大学)
「2005年フランス郊外暴動は何を変えたのか?
～9年間の変化をめぐる社会学的考察～」

全体討論 16 時半—17 時半 司会：園山

- コメンテーター（午前の部）：クロード・レヴィ＝アルヴァレス（広島大学）
- コメンテーター（午後の部）：浪岡新太郎（明治学院大学）

【企画・主催】

国立大学改革強化推進補助金：「研究型大学のガバナンス改革実行プラン～『大学の中の大学』構想～」、園山大祐(人科・教育制度学研究室教員)

【場所】

大阪大学吹田キャンパス 人間科学部・人間科学研究科本館 5 階 「51 号教室」

住所：吹田市山田丘 1-2

最寄駅：大阪モノレール彩都線「阪大病院前駅」下車 徒歩約 10 分

アクセスについて URL：<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/access.html>



資料作成のため事前申し込み受付ます！（10 月 25 日から 11 月 25 日まで）：

下記メールアドレスに、ご氏名、ご所属、ご連絡先(住所・メールアドレス)を記入ください。

kyoikuseminar2014@gmail.com